

「てやる」構文について

李奇楠（北京大学）

要 旨

本論は「てやる」構文について、その通時的文法化現象を踏まえた上で、共時的用法を中心に考察した。「てやる」構文の語用論条件、発話機能、中国語との対照、配慮表現との関係について、具体的用例を取り上げ、コンテキストの立場から検討・分析できた。語用論条件としては、夫婦、兄弟、親子、恋人、同年配の友人など人間関係が見られ、発話機能としては、依頼、慰め、励まし、約束、決意など各カテゴリーにわたっている。「てやる」構文の日中対照を通じて、代表の“给”構文以外に、不均衡対応としての人称詞の使用やVO構造の使用など中国語の表現特徴がわかった。さらに、親しい間柄や、身内に対する低めとともに第三者への高めなどの横・縦二重の配慮を表わす「てやる」構文の認知意味特徴も考察できた。

キーワード：「てやる」構文、語用論条件、発話機能、日中構文の対照、認知特徴

1. はじめに

日本語の中には、3系列のやりもらい(授受)構文がある。それらに関しては、久野(1978)、柴谷(1978)、奥津(1980)寺村(1982)など数多くの先行研究がある。そのうち、日中対照の研究には奥津・徐(1982)の『『てもらう』とその対応する中国語の表現』があり、山岡・李(2015)では配慮表現の立場から「てくれる」とその対応する中国語の表現について論じている。本論は、「てやる」構文について、日中対照をかねて、認知語用論的立場から考察する。

「構文」に対応する英語は、「**construction**」である(『文部科学省 学術用語集 言語学編』日本学術振興会 2001:90)。その逆も同じ対応である(『文部科学省 学術用語集 言語学編』日本学術振興会 2001:238、『認知言語学キーワード事典』辻幸生編 研究社 2002:75)

「構文」そのものに関する認知言語学的定義は以下のようになっている。「「構文」は意味と形式との結びつきが1つのカテゴリーとして実現されたもので、典型と拡張の幅を有し、相互に関わりを持つ言語的に有意なまとまりとみなしている。」(辻 2002:75)

本論の「構文」の使用は、上記の定義づけに基づいている。「てやる」構文自身の基本意味に関しては、次のように考えている。

ある動作の実施は誰かのためになるという基本的意味構造を持っている。その誰かである受益者は基本的には話し手ではない。つまり話し手以外の人間(あるいは動物や植物)になる。

2. 文法化現象としての「てやる」構文

日本語には、もともと、独立動詞「やる」の用法があって、中古以前から使われてきたが、「てやる」構文の補助動詞用法は近世の17世紀の半ば頃から使われるようになったそうである。(『新版 日本語教育事典』2005:459-460)

たとえば、成立時期は760年前後であるらしい（加藤道理他編著『新編常用国語便覧』浜島書店1991：54）と言われる和歌の『万葉集』には次のよう例が見られる。

- (1) うち日さす 宮に行く子を ま愛（がな）しみ 留むれば苦し やれば⁽¹⁾すべなし（お仕えに 御所に上がる子 かわいい子 とめるとつらい やるとやるせない）（『万葉集』上 筑摩書房1978：81）

上記日本古典文学の『万葉集』の例に使われる「やる」は「行かせる」の意味である。「人を遠くへ移動させる」という「やる」の基本義の用法である。

また、成立時期は、1330年から1331年までと考えるのがほぼ定説となっている（加藤道理他編著『新編常用国語便覧』浜島書店1991：122）随筆の『徒然草（つれづれぐさ）』には次のよう例がある。

- (2) 買ふ人、明日その値（あたひ）をやりて牛を取らむといふ（徒然草・九三）（（牛を）買う人は、明日その代金を払って牛を受け取ろうという。）（北原保雄編『全訳 古語例解辞典』小学館1990：836）

上記『徒然草』の例に用いられる「やる」は、「他人に物（ここではお金のことをさすが）を与える」意味で使われている。人の移動からモノの移動を表すようになった動詞「やる」のまだ基本的だが、ある程度拡張的用法だと言えるであろう。

中古の8世紀の文献にも「やる」の使用が確認できて、それより、ほぼ900年以上も後の17世紀中葉に入ってから、補助動詞の使用が現れたのはずいぶん時間が経ったと言わざるを得ない。構造的な（構文的な）文法化現象はそうは簡単に変わらないことは、この用法の通時的变化からも言えるであろう。

現代では、動詞「やる」と補助動詞の「てやる」のこの両者の使用が、よく見られる。たとえば、以下のような用例である。

- (3) 梶（かじ）は自分には何の関係もないこの若い娘に金をかけている。金もやるし、着物も、洋服も買ってやる。フランス語の勉強もさせるし、音楽会も芝居も、行った方がいいと思うところへは行かせてやる。（あした来る人）
- (4) 道中をしたら茶代をやるものだと聞いていた。茶代をやらないと粗末に取り扱われると聞いていた。こんな、狭くて暗い部屋へ押し込めるのも茶代をやらない所為だろう。見すばらしい服装をして、ズックの革靴と毛繻子（けじゅす）の蝙蝠傘（こうもりがさ）を提げてるからだだろう。田舎者の癖に人を見括ったな。一番茶代をやって驚かしてやろう。おれはこれでも学資の余りを三十円程懐に入れて東京を出て来たのだ。汽車と汽船の切符代と雑費を差し引いて、まだ十四円程ある。みんなやったってこれからは月給を貰うんだから構わない。（坊ちゃん）
- (5) たとえば日本でも親子関係（子供が独立する前の）などによくあらわれている。また貧者へのほどこしなどもそれである。インドではこうした概念が拡大されて、貧富の差にも広く適用される。YがXからいかをもらっても何ら義理を生じないのは、YにとってXはより「もてる者」であるから当然のこととして受け取るからである。いかなる意味でも返却などということは社会的に強制されないのである。このシステムでは「よくしてやった」とか「ものをやった」と

いう行為は、Xに何らのリターンを意味しないのである。「もてる者」と「もたざる者」の間では、水が高さから低きに、流れると同様の原則が存在しているのであり、「もののやりとり」の前に、社会学的一定の関係がアプリアリに存在し、それゆえに「もののやりとり」という行為が生まれる。したがって、行為が新しい関係を結果しえないのである。（適応の条件）

上記（3）（4）（5）には「（Nを）やる」構文と「Vて」構文の2大パターンが見られる。前者の「（Nを）やる」構文に属する例は「金もやる」「茶代をやる」「ものをやった」などである。後者の「Vてやる」構文に属する例は「買ってやる」「行かせてやる」「驚かしてやろう」「よくしてやった」などである。モノのやりとりの「をやる」構文の使用および、行為のやりとりの「てやる」構文の使用の並立がわかる。

以上は文法化の立場から「をやる」構文と「てやる」構文の現象を論じたが、以下、主に共時的立場から「てやる」構文の語用論条件、発話機能、日中構文の対照、それぞれの認知的特徴などについて論を進める。

3. 「てやる」構文の語用論条件

いままで、授受構文に関する研究が多く、とくに文法的立場からの考察が整っていると見えるであろう。「てやる」構文に関しては、グループ・ジャマシイ編著（1998：286）の『日本語文型辞典』（くろしお出版）では次のような代表的で、わかりやすい説明がある。

話し手より目下の人や動物のために、話し手（または話し手の側の人）が何かの行為をすることを表す。……怒りの表現として、相手の嫌がることをするという意味で使われることもある。

「てやる」構文の語用論的要素を考えると、上記引用の中に言及された話し手はもちろん、聞き手、動作主体とその動作の受け手および相互関係など、「てやる」構文の使用にとって、重要なファクターであろう。ここで具体的コンテクストにおけるそれらの要素の正体を具体的に考察してみる。

（6）八千代は受話器を置いた。幾らか顔が紅潮しているのが自分でも判った。夫など誘ってやって損をしたと思った。（あした来る人）

この（6）は、妻一夫の関係である。「誘う」動作の主体は妻八千代であり、その動作の受け手は夫克平である。

（7）「ですけど、克平を羽田へ送るなら送ってもいいと思ってますの。長い間一緒に暮したんですから、最後にそのくらいのことはしてやりますわ。曾根さんはおいになりませんか？」（あした来る人）

（7）も、妻一夫の関係である。「してやります」の「する」の具体的意味はその直前の文脈によると、「克平を羽田へ送る」ことであり、動作の受け手は「克平」であり、送り手はこの発話の話し手であり、「克平」の妻八千代であることがわかる。

上記（6）、（7）の2例からよくわかるように、話し手（思考主体も）が動作主であり、しかも動作主と動作の受け手が夫婦関係であれば、「てやる構文」が使用できる。

（8）「妹が十八にでもなったら見せてやってもいい。しかしその時分になったら、この男はもう他の女と結婚して、妹と結婚出来なかったことを反って幸福に思っ

ている時分だろうよ」(友情)

(8)では、兄一妹の兄妹関係である。「見せる」の動作主(=話し手)は兄、動作の受け手(「見る」の動作主)は妹である。

なお、家族関係の場合、それほど年上年下関係を問わず、「てやる」構文が使える。次の使用例である。

(9)また、活発な上・下のモビリティがあり、一方に上昇する者があるということは、他方に悲劇を生んでいる。「自分は大学に行けず、一生下積みで終わった、せめて子供だけは出世させてやりたい」という親の悲願が、現在の日本ほど強い社会はないであろう。大学へ、よい大学にはいりさえすれば、という気持ちは、上へのモビリティの絶対性を前提として成り立つ。(タテ社会の人間関係)

(9)は親一子どもの関係である。動作主(=願い手)は親、動作の受け手(「出世する」の動作主)は子供のほうである。

(10)「ぼくが四歳の頃、食えなくなったぼく達の一家は北海道小樽に移住した。場末の町で駄菓子屋を始めた。(略)生活は依然として食うや食わずだった。ぼくは学校へ通う長い道を、鉱山を発見して、母を人力車に乗せてやることばかり考えていた」(「自作年譜」)と当時を回想している。(近代作家入門)

(10)は子ども一親の関係である。つまり、乗せるの動作主は話し手の子どもであり、その動作の受け手いわゆる乗る主体は親の母である。

(11)僕はウィスキー・ソーダをひとくち飲み、緑のくわえたマルボロにマッチで火をつけてやった。「いろいろと大変だった?お葬式とか、そういうの」(ノルウェイの森)

(12)雨の屋上には人は一人もいなかった。ペット用品売り場にも店員の姿はなく、売店も、乗物切符売り場もシャッターを閉ざしていた。我々は傘をさしてぐっしょりと濡れた木馬(もくば)やガーデン・チェアや屋台(やたい)のあいだを散策した。東京のどまん中にこんなに人気のない荒涼とした場所があるなんて僕には驚きだった。緑は望遠鏡が見たいというので、僕は硬貨を入れてやり、彼女が見ているあいだずっと傘をさしてやっていた。(ノルウェイの森)

(11)(12)は準家族のような恋人関係の場合の「てやる」構文の使用である。下記の(13)は家族関係ではないが、年上と年下の関係である。

(13)梶は銀座の酒場で偶然発見したこの小娘に、酒場から足を洗わせて、洋裁店を持たせてやっている。一流デザイナーになりたいという彼女の青雲の志に加担してやっているわけである。六十歳まで一文も浪費したことのない梶大助の、人生の最後のコースで持った、これは完全な浪費の口である。これまでまったく浪費ということを知らなかったの、今になって、だれにも知られずに、そういう支出ばかりの事業をやってみたくなったのである。(あした来る人)

次の(14)は教員一生徒の人間関係の用例である。

(14)とにかくその日の授業だけは無事に済した上で、と丑松は湧上るような胸の思を制えながら、三時間目の習字を教えた。手習いする生徒の背後へ廻って、手に手を持添えて、漢字の書方などを注意してやった時は、どんなにその筆先が

ぶるぶると震えたらう。周囲の生徒はいずれも伸しかかって眺めて、墨だらけな口を開いて笑うのであった。(破戒)

さらに、人間から動物(牛、犬、猫、魚など)への行為の場合、「てやる」構文を使っている。

(15) 男も、女も、この焚火の周囲に集ったかぎりは、昨夜一晚寝なかった人々、かてて加えて今日の骨折——中にはもう烈しい疲労が出て、半分眠りながら落葉の焼ける香を嗅いでいるものもあった。叔父は、牛の群に振舞うと言って、あちこちの石の上に二合ばかりの塩を分けてやる。父の飼慣れたものかと思えば、丑松も可懐しいような気になって眺めた。(破戒)

(16) 「いや、いかん」と浅二郎さんが云った。「塩辛(しおから)を入れてやると、鯉の子が興奮するということじゃ。じっくら、じっくら育てねばいかん」(黒い雨)

(17) 「窓の外は広い庭になっていて、そこは近所の猫たちの集会所として使われています。僕は暇になると縁側に寝転んでそんな猫を眺めています。いったい何匹いるのかわからないけれど、とにかく沢山の数の猫がいます。そしてみんなで寝転んで日なたぼっこをしています。彼らとしては僕がここの離れに住むようになったことはあまり気に入らないようですが、古いチーズを置いてやると何匹かは近くに寄ってきておそろおそろ食べました。(ノルウェイの森)

(18) 我々はどちらかというところに話もせず、ただ黙々とすき焼をつつき、ビールを飲み、そしてごはんを食べた。かもめ⁽²⁾が匂いをかぎつけてやってきたので肉をわけてやった。腹いっぱいになると、僕らは二人で縁側の柱にもたれ、月を眺めた。(ノルウェイの森)

さらに、(19)のような人より自然物(ここでは「光」)への行為に使われる「てやる」構文の用例もある。擬人化の用法とも言えるであろう。

(19) 僕はその光を両手で覆ってしっかりと守ってやりたかった。僕はジェイ・ギャツビイが対岸の小さな光を毎夜見守っていたのと同じように、その仄かな揺れる灯を長いあいだ見つめていた。(ノルウェイの森)

以上は、おもに動作主体一動作の受け手(話し手一聞き手などとの関連も含めて)の関係から「てやる」構文の使用条件を考察した。夫婦、家族同士(親から子への動作ももちろん、子から親への動作も使用できる)、恋人同士や同年輩の関係、人間から動物・植物・自然物などへの恩恵行為・与益動作も「てやる」構文が使用できることがわかった。

次は「てやる」構文の発話行為・機能について考えてみる。

4. 「てやる」構文の発話機能

語彙と同じように、発話の表現形式がさまざま、開放的システムだと言えるが、機能や行為の種類から考えると、サールの「世界」と「ことば」との関係などの規準による5分類のカテゴリーに入ると思う。ここでは、Searle(1979)、山岡(2008)、山岡・牧原・小野(2010)、李(2015)の発話機能に関する先行研究を踏まえ、以下表1のような6発話機能のパターンを基に、「てやる」構文の発話機能を考察する。いくつかの異なる表現形式は、

同じ機能を表わすことができるように、一つの構造表現で一つではなく、二つ、三つあるいはそれ以上の機能を果たし、いくつかの行為をカバーできる場合もある。

【表 1】 発話機能の 6 分類

分類	発話の目的	適合の方向	誠実性条件	範疇の例
演述 (Assertives)	事実に関する命題が真であることに話者が責任を負うこと	言葉を世界へ(↓) (words-to-world)	命題に対する信念	陳述、主張、結論、推論
指令 (Directives)	聞き手にある行為を行わせようとする	世界を言葉へ(↑) (world-to-words)	聞き手の行為に対する欲求	依頼、命令、助言、懇願、訴え
自告 (Commissives)	話し手がある行為を行うことについて自ら責任を負うこと	世界を言葉へ(↑) (world-to-words)	話し手の行為に対する意図	約束、脅迫、提供、協力
宣言 (Declarations)	ある対象の地位や状態について何らかの変化をもたらすこと	双方向(↑↓) (bi-direction)	なし	命名、賭け、任命、譲渡
表出 (Expressives)	話し手の心理状態を表現すること	無方向(φ) (no direction)	話し手の様々な心理状態	感謝、祝福、謝罪、賞賛
形成 (Formations)	会話の形成に貢献すること	一定しない	話し手の聞き手に対する善意的態度(ポライトネス)	挨拶、交話、注意要求、言い直し要求

4.1. 「てやる」構文と依頼の発話

考察によると、「てやる」構文は依頼の発話によく使われる。

- (20) 「できない、できない、やって...とって、けっしてひとりではやろうとしません。かと思うと、できることはすごくよくできるんです。だから、できない子を手伝ってやってって頼むと、うんというんですが、手伝うのではなく、ひとりでどンドンやっちゃうんです。協力して、ふたりでいっしょにやろってことができないんです」(ひとりっ子の上手な育て方)
- (21) 「駅長さん、弟をよく見てやって、お願いします。」(雪国)
- (22) 私は断ったわ。私は何年もブランクがあるし、まったくの初心者ならともかく何年もレッスンを受けた人を途中から教えるのは無理ですって言ってね。だいいち子供の世話が忙しくてできませんって。それに、これはもちろん相手には言わ

なかったけれど、しょっちゅう先生をかえる子って誰がやってもまず無理なのよ。でもその奥さんは一度でいいから娘に会うだけでも会ってやってくれって言うの。（ノルウェイの森）

(23) 「駅長さあん、今度の休みの日に家へお帰りって、弟に言ってやって下さあい。」
（雪国）

(24) 「丁度、いいところへ、いい人物から電話がありましてね、頼んでおきました。明日行って詳しく話してやって下さい」梶は曾根に言った。（あした来る人）

(25) 「呼び出しがあったら、一応出掛けて説明してやって下さい。いい仕事には金を出そうという意志だけは持っている会社です」（あした来る人）

(26) 「ほんの子供ですから、駅長さんからよく教えてやっていただいて、よろしく
お願いいたしますわ。」（雪国）

(20) (21) は「手伝ってやって」「見てやって」の「てやって」形式で依頼の機能を果たしているが、(22) は「てやってくれ」(23) (24) (25) は「てやってください」(26) は「てやっていただいて」の二重授受形式で依頼している。どちらも依頼者は話し手であり、依頼動作の行為者は聞き手であり、その行為の受け手は依頼者である話し手の身内（娘、弟）かいちおう知っている人間か他の第三者である。依頼者も聞き手のその依頼行為の実施によって恩恵を受けることになるので、「てやって」のうしろに「てください」「ていただいて」を添えることになっている。

すこしぞんざいで、内側の人間にしか使えないと思うが、次のような「てやってくれたまえ」の例も見られた。

(27) 「まあ、上るさ——猪子（いのこ）君の細君も居るし、それに今話した瀬川君も一緒だから、是非逢ってやってくれたまえ。そんなところに腰掛けていたんじゃ、緩々談話も出来ないじゃ無いか」（破戒）

(27) は「てやってくれ+たまえ（動詞給うの命令形）」の用法である。命令というより、同輩また同輩以下の人に対して、親しみの気持ちを込めて言う表現であろう。命令ではないが、依頼というより誘いのほうがふさわしいかもしれない。

依頼の場合、本来は「てやって」で十分だが、さらに話し手にとっての恩恵を強調するため、「てくれる」構文と組み合わせて言う発話となっている。

4.2. 「てやる」構文と約束の発話

4.1 では、「てやる」構文の指令（Directives）範疇における「聞き手にある行為を行わせようとする事」、すなわち依頼や要求などの発話を見てみたが、ここでは約束など、話し手がある行為を行うことについて自ら責任を負うことの自告（Commissives）範疇の「てやる」構文使用の発話を考察する。その分類基準は下記表2のとおりである。

【表 2】 発話機能における指令と自告

分類	発話の目的	適合の方向	誠実性条件	範疇の例
指令 (Directives)	聞き手にある行 為を行わせよう とすること	世界を言葉へ(↑) (world-to-words)	聞き手の行為に 対する欲求	依頼、命令、 助言、懇願、 訴え
自告 (Commissives)	話し手がある行 為を行うことに ついて自ら責任 を負うこと	世界を言葉へ(↑) (world-to-words)	話し手の行為に 対する意図	約束、脅迫、 提供、協力

(上記 [表 1] よりの抜粋)

たとえば次のよう例である。

(28) 「邪険なこと言うなよ。三十分ほどで解放してやる」(あした来る人)

(29) それから清はおれがうちでも持って独立したら、一所になる気でいた。どうか置いて下さいと何遍も繰り返して頼んだ。おれも何だかうちが持てる様な気がして、うん置いてやると返事だけはして置いた。(坊ちゃん)

(30) 「十月のはじめ。もし受かってたら、美味しいもの食わしてやるよ」(ノルウェイの森)

(28) の「解放してやる」、(29) の「置いてやる」、(30) の「美味しいもの食わしてやるよ」などは話者の自らの行為に関する言及いわゆる約束の発話として使われている「てやる」構文の使用例である。

4.3. 「てやる」構文と慰めの発話

本来は、4.2 の約束の発話とは、同じ大枠の「話し手がある行為を行うことについて自ら責任を負うこと」の自告(Commissives)範疇に属しているが、ただ一方向性の「約束」行為より、相手の悩みなどの解決にすこしでも役立とうという行為者の主旨で、「慰め」の下位区分が生じたと言える。

(31) 「さっき電車の中で喧嘩をしていたら。あれはね、彼女が家からやかましく言われて、厭な男と結婚を迫られているからなんだ。彼女はすぐ弱気になって負けそうになるんだ。それで俺が、その結婚を徹底的に邪魔してやると云って、慰めたり脅かししたりしていたんだよ」(金閣寺)

(31) の「その結婚を徹底的に邪魔してやる」の発話は、「厭な男と結婚を迫られている」という語用論的コンテキストのもとでの使用なので、話し手の善意ある慰めの発話となっている。

4.4. 「てやる」構文と励ましの発話

上記 4.2、4.3 の約束の発話、慰めの発話と同じく、「励まし」は「話し手がある行為を行うことについて自ら責任を負うこと」の自告(Commissives)範疇に属しているが、相手のさらなる発展を祈る気持ちを込めて使われる発話なので、ここでその下位分類の一つと

して考える。

(32) 不良品を作ったのは私の店ではない。作ったのはメーカーであり、私は問屋から仕入れて売っただけである。また、当時の技術レベルでは不良品もとくに珍しいというわけではなかった。しかし、そのとき私が、不良品の責任をメーカーや問屋に押しつけておればどうだったろうか。それ以上誰も私に文句をいつてくる人はいなかったかもしれない。その代わり、店は信用を失い、まして「これからも買ってやるよ」などという励ましは絶対にもらえなかったであろう。打算も何もなく、つぶれることも覚悟して誠意をつらぬいたことが評価されたのだろう。(心の危機管理術)

(32) の「これからも買ってやるよ」は話し手自身すなわちお客さんの相手イコール店主のためへの行為に言及することで、励ましの機能を果たしている。商売をやる店にとって、お客さんの購買行為は何よりの支持なので、この発話ほど暖かい励ましが無いであろう。

4.5. 「てやる」構文と決意の発話

「てやる」構文は、話し手の決心や強い決意の用法がある。こちらはふつうの会話のやり取りで使われる「てやる」用法とは違い、対人性が薄く、話し手自身の心理状態を表わす「表出」機能の範疇に属する構文表現である。

【表 3】発話機能における表出

分類	発話の目的	適合の方向	誠実性条件	範疇の例
表出 (Expressives)	話し手の心理状態 を表現すること	無方向 (φ) (no direction)	話し手の様々 な心理状態	感謝、祝福、 謝罪、賞賛

(上記 [表 1] よりの抜粋)

(33) それである日、中学校三年生のときだけ、食事はちゃんとしたものを自分で作ってやると決心したわけ。そして新宿の紀伊国屋に行っていちばん立派そうな料理の本を買って帰ってきて、そこに書いてあることを隅から隅まで全部マスターしたの。まな板の選び方、包丁の研ぎ方、魚のおろし方、かつおぶしの削り方、何もかもよ。そしてその本を書いた人が関西の人だったから私の料理は全部関西風になっちゃったわけ。(ノルウェイの森)

(34) 甘えるとつきとばされて、金がかかるって文句ばかり言われて、ずうっとそうだったのよ。それで私こう思ったの、私のことを年中百パーセント愛してくれる人を自分でみつけて手に入れてやるって。小学校五年か六年のときにそう決心したの。(ノルウェイの森)

(35) 「それで私、小さい頃から可愛い女の子になってやろうと決心したの」と直子はすすきの穂をくるくると回しながら言った。(ノルウェイの森)

(36) おれは六百円の用法に就て寝ながら考えた。商買をしたって面倒くさくって旨く出来るものじゃなし、ことに六百円の金で商買らしい商買がやれる訳でもなかろう。よしやれるとしても、今の様じゃ人の前へ出て教育を受けたと威張れないからつまり損になるばかりだ。資本などはどうでもいいから、これを学資にして勉強してやろう。六百円を三に割って一年に二百円ずつ使えば三年間

は勉強が出来る。三年間一生懸命にやれば何か出来る。それからどこの学校へ這入ろうと考えたが、学問は生来どれもこれも好きでない。ことに語学とか文学とか云うものは真平御免だ。新体詩などと来ては二十行あるうちで一行も分らない。どうせ嫌なものなら何をやっても同じ事だと思ったが、幸い物理学校の前を通り掛ったら生徒募集の広告が出ていたから、何も縁だと思って規則書をもらってすぐ入学の手続をしてしまった。今考えるとこれも親譲りの無鉄砲から起った失策だ。(坊ちゃん)

- (37) 「この壁が邪魔だ、この壁を打っ壊してやりたいもんだ」(痴人の愛)
- (38) ナオミは私が内々何か企んでいるのをうすうす感づいていたのですが、「まあ何をするか見ているやれ」と云った調子で、初めのうちは凄く落ち着いていました。(痴人の愛)
- (39) このとき、保己一は心に誓った。「よし、たとえ盲目でも必ず学問をおさめ、きつと笑ったものたちを見返してやる」一後年、天下に名を知られる学者になった保己一は、その昔、自分をあざ笑った商店の主人を呼び、自分の本の出版を依頼した。そして、店の主人に「私が今日ここまでなれたのも、あのとき店員たちの悪口雑言があったればこそ」と、深く感謝したという。(心の危機管理術)

上記の用例はどれも「てやる」構文の決意の発話として使われる例である。このとき、文末形態の特徴としては、「てやる」「てやろう」「てやろうか」「てやろうと思う」「てやるものか」などの構文スタイルがよく使われる。独り言のような発話もある。

4節では、「てやる」構文の発話機能を考察した。依頼や約束や決心など、指令(Directives)、自告(Commissives)、表出(Expressives)などの範疇にわたっている。論理的には演述(Assertives)宣言(Declarations)の発話機能も併せ持つはずである。たとえば、「てやった」のような文末が「た」形の場合など、過去のコトガラに関する告知や主張などの表現が演述(Assertives)範疇であろう。「与えてやる」と言いながら、贈与行為が完成する場合、宣言(Declarations)範疇の例になるであろう。下記表4のとおりである。

ただ、同じ発話で、異なる範疇になる可能性もある。

- (40) 「ねえ、譲治さん、あたし、洋服が欲しいんだけど、拵えてくれない?」と、彼女は突然、甘ったれるような、そのくせ変に冷やかすような、猫撫で声でそう云いました。……「僕は当分そんな物は買ってやらんよ」(痴人の愛)

(40)の「僕は当分そんな物は買ってやらんよ」は話し手の今現在の心理状態すなわち否定的決意の表出(Expressives)である同時に、聞き手の懇願に対する断る機能すなわち自告(Commissives)でもある。前者は一次元的基本的機能であり、後者は二次元的究極的機能であると言えるであろう。

5. 「てやる」構文と中国語の表現

4では、「てやる」構文に見られる多様の発話機能を考察・分析できた。この5では、日中対照の立場から「てやる」構文の使用とその中国語の表現とのそれぞれの特徴を記述し、論じる。発話機能としては共通的部分だと考えられるが、異なる種類の言語なので、表現

としては、違う部分があるのは想定できるであろう。

[表 4] 「てやる」構文の発話機能

分類	発話の目的	適合の方向	誠実性条件	範疇の例
演述 (Assertives)	事実に関する命題が真であることに話者が責任を負うこと	言葉を世界へ (↓) (words-to-world)	命題に対する信念	陳述、主張、結論、推論 てやった
指令 (Directives)	聞き手にある行為を行わせようとする	世界を言葉へ (↑) (world-to-words)	聞き手の行為に対する欲求	依頼、命令、助言、懇願、 てやって、てやってください
自告 (Commissives)	話し手がある行為を行うことについて自ら責任を負うこと	世界を言葉へ (↑) (world-to-words)	話し手の行為に対する意図	約束、脅迫、提供、協力 てやる
宣言 (Declarations)	ある対象の地位や状態について何らかの変化をもたらすこと	双方向 (↑↓) (bi-direction)	なし	譲渡 てやる
表出 (Expressives)	話し手の心理状態を表現すること	無方向 (φ) (no direction)	話し手の様々な心理状態	決意、決心 てやる てやれ てやろう

結論を先に言うと、日本語における「てやる」構文のような行為恩恵方向性を示す補助動詞構造は、中国語では、「人称詞＋“給” (OR “為” “幫” “替” などの“介詞”)＋人称詞」のような基本構造になるが、単なる V0 構造や V 構造で表わす場合もあり、他の意味的に応じるその場その場での用法もある。つまり、「てやる」構文とまったく一対一で対応する構造は中国語にはとくにないと言える。

5.1. 「てやる」構文と対応する中国語の表現

日中対応している構文はたとえば、次のような中国語の介詞（対象を指す助詞）の“給 gei” 構文 (OR “為 wei” 構文、“幫 bang” 構文、“替 ti”) 構文などである。

「てやる」構文 (日) VS “給” 構文 (中)

「てやる」構文 (日) VS “為” 構文 (中)

「てやる」構文 (日) VS “幫” 構文 (中)

「てやる」構文 (日) VS “替” 構文 (中)

(41) 少しするとね『すみません、少し背中をさすっただけませんか』ってその子が苦しそうな声で言ったの。見るとすごく汗かいているから、私一所懸命背中さ

すってやったの。すると『ごめんなさい、ブラ外してくれませんか、苦しくって』
ってその子言うのよ。まあ仕方ないから外してあげたわよ、私。

(不大工夫，她像很吃力地说：‘对不起，给我搓一下背好么？’一看，汗出得很厉害，我就使劲给她搓背。不料她又说：‘实在抱歉，能把胸罩解掉吗？怪难受的。’我只好动手为她解。) (ノルウェイの森 (原文) 挪威的森林 (訳文))

- (42) 幼児が、新しい発見を告げてきたら、で、よくこんなところに気がついたと思ったら、素直に、感じたままをことばにして喜び、感心してやりましょう。

(如果孩子来对你讲他的新发现，你也觉得他所注意到的问题很有意思，你就应该直率地把你的感想告诉他，为他高兴，为他叫好。)

(ひとりっ子の上手な育て方 (原文) 独生子女优育法 (訳文))

- (43) 園庭で遊んでいて、教室に入る前に、子どもたちに、さあ、みんな手をきれいに洗ってからお教室に入るんですよ、と声をかけました。他の子は、ワッといって先を争って、水道のところに並び、さっさと洗って、ハンカチでふいて、どんどん教室へ帰っていきます。でも、由美ちゃん、その子の名前なのですが、由美ちゃんは、列のいちばん後ろに並んでいましたが、自分の順番がきても、蛇口の下に手を出すだけで、水道の栓をひねらないで、いつまでもそのままの姿勢で待っているんですね。仕方なく、水を出してやりますと、手に水をかけるだけ、こすりあわせたりしないのです。で、まあ、洗ってやったわけですけど、濡れた手をふこうともしないのです。

(结束室外活动进教室前，老师告诉小朋友们要先洗一下手。其他孩子一听说就哗地一下在水龙头前排好，洗完手，用毛巾一擦就一个接一个地进到教室里去了。但是由美这个女孩却排在队伍的最后边，等轮到她时，她只会把两手伸到水龙头下面，也不拧水龙头只等着。无奈老师帮她拧开，但只见水在她手间哗哗流过，她连搓一搓都不会。当老师帮她洗完，她也不会拿毛巾擦一擦。)

(ひとりっ子の上手な育て方 (原文) 独生子女优育法 (訳文))

- (31) 「さっき電車の中で喧嘩をしていたら。あれはね、彼女が家からやかましく言われて、厭な男と結婚を迫られているからなんだ。彼女はすぐ弱気になって負けそうになるんだ。それで俺が、その結婚を徹底的に邪魔してやると云って、慰めたり脅かしたりしていたんだよ」⁽³⁾

(“看见我们刚才在电车上口角了吧！她过于脆弱，家里强迫她和一个讨厌的男子结婚，她几乎一蹶不振，我便说我替你出面干预，对她是又安慰又恫吓，这才……”) (金閣寺 (原文) 金閣寺 (訳文))

上記のような日中対応構文の中では、とくに、「てやる」構文 (日) VS “給” 構文 (中) が多く見られる。

- (44) 十一時頃隣のベッドで寝ている男の奥さんがやってきて、夫の寝巻をとりかえたり果物をむいてやったりした。

(11点时，邻床男子的太太来了，给丈夫换睡衣，削水果皮。)

(ノルウェイの森 (原文) 挪威的森林 (訳文))

- (45) 緑は父親に話しかけ、汗を拭いてやったり、痰をとってやったり、隣の奥さんや

看護婦と話したり、僕にいろいろ話しかけたり、点滴の具合をチェックしたりしていた。

(緑子则向父亲搭话，给他擦汗，取痰，同旁边的太太和护士交谈，还找些话跟我说，不时看看点滴状况。) (ノルウェイの森 (原文) 挪威的森林 (訳文))

5.2. 「てやる」構文と対応していない中国語の表現

「てやる」構文は、5.1で論じたように、中国語の“給”構文 (OR “為” 構文、“幫” 構文、“替” 構文と形式的対応をしているが、それ以外の構造表現になるケースも多い。

(46) 余り気の毒だから「行く事は行くがじき帰る。来年の夏休にはきつと帰る」と慰めてやった。それでも妙な顔をしているから「何を見やげに買って来てやろう、何が欲しい」と聞いてみたら「越後の笹飴が食べたい」と云った。

(俺看她过于可怜，就安慰她说：“去是去，不过很快就要回来的。过年—暑假一定会回来。”俺虽然这样说了，看她的样子还是很难受，于是俺问她说：“给你买点什么土产带回来吧，你要什么？”她回答说：“想吃越后的竹叶糖。”)

(坊ちゃん (原文) 哥儿 (2) (訳文))

(46) の「慰めてやった」は中国で表現する場合、ふつう「動詞+対象」のような VO 構造となる。中国語の場合、動詞のプラスの意味に頼る部分が大きいと思う。動作動詞である慰める (安慰) とその動作の受け手である彼女 (她) との組み合わせだけで、恩恵方向性を示すことができたかもしれない。

(47) 僕は学校を出てからまだ二年しかならない、だから金も別にない。滝ちゃんを一日も早く出してやりたいと思っても、たゞそれは思うだけのことでしかないんだ。これはこの前の晩お話しした通りだ。然し僕は本当にこの強い愛をもっている。安心してくれ。頼りないことだけれども、何時かこの愛で完全に滝ちゃんを救ってみせる。滝ちゃんも悲しいこと、苦しいことがあったら、その度に僕のこの愛のことを思って、我慢し、苦しみ、悲しみに打ち勝ってくれ。

(我出校门才两年，所以也没有多少钱。虽然我想早日把你救出来，但这也只能是想想而已，正像上次晚上我对你说的那样。然而，我确实深深地爱着你，请你放心。虽然好像是不怎么靠得住，但早晚有一天我要用我对你的爱把你彻底地解救出来。当你悲伤、痛苦的时候，就请你想一想我对你的爱，你一定要忍耐，要战胜那痛苦和悲伤。) (近代作家入門 (原文) 日本近代作家介绍 (訳文))

(47) の「滝ちゃんを一日も早く出してやりたい」は、中国語では、“想尽早救你出来”のような「動詞+対象」の VO 構造となるであろう。あるいは、“我想早日把你救出来”のような中国語の把構文 (いわゆる“把+対象 (ここでは2人称代名詞)+動詞”) 表現が使われるであろう。日本語にも中国語にも対象を指し示す表現があるが、この例における「てやる」のような日本語の対象へのさらなる恩恵性の表示が、中国語にはない。恩恵のやりとりに対し、日本語ほど敏感ではなく、鈍感だから、言語化していないのか。それとも、恩恵の意味は動詞に含まれているからとくに言わずにしているのか。この点に関しては、中国語の主観性⁽⁴⁾が進んでいるようである。

さらに、日本語の「てやる」構文は、基本的には話し手以外の外側向けの恩恵性方向の

構文的意味を持っているので、人称詞を使わなくても理解できるが、中国語の場合、基本的には人称詞の使用が必要である。

(48) 「危いよ。帰るなら送ってやるよ。」

(“危険呀！你要回去，我来送你。” / “危险哪。你要回去，我送你。” / “那多危险。要回去，我送你。”)

(雪国 (原文) 雪国 (1) 雪国 (2) 雪国 (3) (訳文))

(48) では、話し手と聞き手の会話で、動作「送る」の主体は話し手であり、その動作の受け手は聞き手であるので、人称代名詞を使わず、「送ってやる」だけで済む。中国語の場合、この意味を表すには、同じ場面であっても、現代中国語は話し手&動作主の一人称“我”と、聞き手&動作の受け手である二人称の“你”は省略できない。

人称詞の使用については、人称詞の多用・不可欠度は中国語のほうは日本語より目立っている。人を重視する中国語とコトガラを重視する日本語の違いかもしれない。人の能動的意志的部分を言語化している中国語と、人がコトガラのうしろに隠れてはにかみやめげな・控えめの日本語のような差を感じている。これもする言語となる言語の反映と言えるかもしれない。

6. 「てやる」構文と配慮表現

配慮表現は、コミュニケーションをより円滑に進める上で重要な役割を果たしている。日本語のもっとも顕著な特徴の一つであるとも言える。配慮表現の定義については、以下のような論述がある。

対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられることが、一定程度以上に慣習化された言語表現

山岡・牧原・小野(2010)、山岡(2015)

「配慮表現」というのは、聞き手や読み手に悪い感情を持たれないようにするために使う表現である。「です」「ます」のような敬語表現、「悪いけど」のような前置き表現、携帯メールで使われる笑顔を表す絵文字など、さまざまなものがある。

野田 (2014 : 3)

「配慮」とその表現の関係については、次の杉戸 (2001) の論述がある。

前述のように、答申は、次のような敬意表現の実例を、それらにまつわる「配慮」の種類と関連させながら挙げている。

①人間関係に対する配慮

0 同じ立場の相手に対する配慮

「ありがとう」「ありがとうございます」

「先ほどの御意見でわからないところがあったのですが」

「私の説明が不十分で」

0 異なる立場の相手に対する配慮

「企画書を作ってくれない？」～「企画書を作ってもらえますか」

「はい、分かりました」

0 親しい相手か否かによる配慮

「暑いね」～「暑いですね」

②場面に対する配慮

「それ、どういう意味？」～「それはどういう意味でしょうか」

③伝える内容に関する配慮

「悪いけど、急な仕事が入ったので、待ち合わせの時間ずらしてくれない？」

④相手の気持ちや状況に対する配慮

「忙しいときに悪いんだけど、これコピーしてくれない？」

「どうぞお先に」～「どうぞお通りください」

⑤自分らしさを表すための配慮

「わたし」～「わたくし」～「あたし」～「ぼく」～「おれ」～「わし」

杉戸（2001：23-24）

ここでは、上記のような先行研究を視野に入れて、「てやる」構文の使用と配慮表現との関係を考えてみる。

(49) 母親「誠子に話してやってください」（楽園 06）

(49) は、話し手である母親から聞き手のライターへの発話である。「誠子」は話し手の母親の次女である。「話す」主体は聞き手のライターであり、その話すという動作の実施は話し手の娘にとっていいことである。つまり、(49) は話し手である母親から聞き手であるライターに向かって、自分の娘の誠子に真実を伝えてもらう依頼の発話である。自分の娘のための動作なので話し手の母親は低い姿勢の「てやる」構文を使っていて、さらにそれと同時に被依頼側の「話す」動作者の記者のほうを高める表現ともなる。ここでの「てやる構文」の使用は一種の一石二鳥の配慮表現だと言える。

(50) 浜田雅功 妻・小川菜摘のトラブルに迅速対応&ユーモア

ダウンタウン浜田雅功（はまだまさとし）の妻でタレントの小川菜摘（おがわなつみ）が22日、ブログを更新。さまざまなトラブルにユーモアをもって対応する夫の姿を明かした。

21日、新品のゴム手袋を使って洗い物をしようとしたところ、両方が右手用だったことに驚いた小川。早速「親ビン」と呼ぶ浜田に話したところ「その会社に電話して確認したら?? 俺、電話したるか?」と笑いながらノリノリだったという。

こんなことは以前もあったという。ハンバーガーを買ってきて食べようとしたら、パンと肉を挟んでいる順番がイレギュラーな順番に。これまた「親ビン」に話したところ、「俺、ちょっと行って、取り替えてもらうわ～～」と現物（ハンバーガー）を手に、フットワークも軽やかに、直接店に行ってしまったという。

帰宅した浜田に「なんて言ったの?」と聞くと、浜田は「店長さんに見せて、これ正解か、不正解か言うてくれ、、、って」とバラエティー番組のような問答を繰り返した

ことを明かし、「(店長は) あ〜〜〜〜、これは不正解です〜やて、、、笑笑」と笑っていたという。

小川は1989年に浜田と結婚。2男をもうけた。長男はベーシストのハマ・オカモト。

(<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170222-00000114-dal-ent>)

(50) の「その会社に電話して確認したら?? 俺、電話したろか?」の「俺、電話したろか?」は「俺、電話してやろうか?」の「てやる」構文の縮約形である。話し手はよく知られる日本のお笑い芸人である浜田雅功(はまだまさとし)、聞き手はその妻のタレントの小川菜摘(おがわなつみ)である。夫婦間の会話として、一人称の「俺」もそうであるし、「電話したろか?」の「てやる」構文の使用も、親しい間柄の遠慮不要の会話である。夫婦間の不遠慮は一種の仲良しの証拠でもあり、配慮でもある。夫婦間の遠慮は問題が生じる。お互いに遠慮していくと、離婚(別れる)の道を辿ることになるとも聞いている。

次の(51)のような会話もそうである。

(51) 妻「何度も言ってるよね。君は稼いでるんじゃないなくて、稼がせてもらってるの。

いい? 君が仕事はできるのはどうして? わたしが家でちゃんと子育てをしてるからよね。だから安心して君は会社で働けるんだよね。だから君は稼いでやってるんじゃないなくて、稼がせてもらってるんだよね〜」

(スーパーサラリーマン左江内氏 06)

(52) 妻「楽しそうにしてから行かせてやってもいいかなと思ってたけど、仕事のことを考えてたから行かせてあげない」(スーパーサラリーマン左江内氏 06)

(51) の発話は妻から夫への説教のような内容である。(52) も同じ妻から夫への発話である。その中には「てやる」構文の使用が見られる。「だから君は稼いでやってるんじゃない」「行かせてやってもいいかなと思ってたけど」の部分である。夫婦仲良しの証しであり、ある意味で遠慮不要のもっとも夫婦らしい会話であろう。こちらも広い意味における夫婦間の配慮表現でもあろう。

上記の用例分析からわかるように、身内への親しさの誇示、あるいは身内への動作を実施する第三者のほうを高めるため使われる「てやる」構文は、横と縦の二重の配慮の役割を担う構文だと言えるであろう。

7. おわりに

本論は、「てやる」構文について、語用論的立場から、その使用条件、発話機能、中国語との対照考察ならびに配慮表現との関係を論じた。

語用論条件としては、夫婦・親子・兄弟など家族間の発話として使われているし、同年輩や年上から年下への発話などにも使われている。

発話機能としては、依頼や約束や決意表出など発話機能の各範疇に幅広く応用されてい

ることがわかった。

中国語との対照を通して、日本語の「てやる」構文の恩恵方向性の専用マーカとしての認知特徴が再認識できて、中国語では、“給”構文あるいは“為”構文、“幫”構文、“替”構文などとの対応、人称詞の使用の不均衡性すなわち日本語より言語化しやすい傾向がわかった。また、VO構造やVだけで表現する中国語のとくに恩恵方向性にそれほど敏感ではないことがわかった。

配慮表現もそのような認知的特徴の現われであり、日本語の「てやる」構文は、それなりに、日本語母語話者の人間関係・恩恵関係を捉える文法化現象の一つだと言えるであろう。

注

- (1) 下線は筆者による。以下同様。
- (2) ここの「かもめ」は鳥ではなく、猫の名前である。
- (3) 上記用例(31)の再掲。通し番号は同じく(31)にする。
- (4) 主観性の定義づけに関しては、詳しくは小野・李(2016)を参照。

参考文献

- 庵功雄(2001)『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える—』スリーエーネットワーク
- 奥津敬一郎(1980)「動詞文型の比較」國廣哲彌編『日英語比較講座 第2巻文法』大修館
- 奥津敬一郎・徐昌華(1982)「『~てもらう』とそれに対応する中国語表現」『日本語教育』第46号 日本語教育学会 92-104 (奥津敬一郎(1996)『拾遺日本語文法論』ひつじ書房 所収)
- 小野正樹・李奇楠(2016)『言語の主観性』くろしお出版
- 久野暲(1978)『談話の文法』大修館書店
- グループ・ジャマシイ編著 砂川有里子(代表)(1998)『日本語文型辞典』(くろしお出版)
- 柴谷方良(1978)『日本語の分析』大修館書店
- 杉戸清樹(2001)「敬意表現の広がり—「悪いけど」と「言っていないかなあ」を手がかりに—」『日本語学』4特集「敬意表現」を考える 明治書院 22-33
- 野田尚史・高山善行・小林隆編(2014)『日本語の配慮表現の多様性』くろしお出版
- 辻幸生編(2002)『認知言語学キーワード事典』研究社
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版
- 日本学術振興会(2001)『文部科学省 学術用語集 言語学編』
- 水谷修・加藤清方他編集(2005)『新版 日本語教育事典』大修館書店
- 山岡政紀(2008)『発話機能論』くろしお出版
- (2015)「慣習化されたポライトネスとしての配慮表現の定義」『第17回大会発表論文集第10号』日本語用論学会
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹(2010)『コミュニケーションと配慮表現』明治書院
- 山岡政紀・李奇楠(2004)「依頼表現の日中対照研究」《日本語言文化研究》第五輯 学苑出版社 131-160
- (2007)「謝罪表現の日中対照研究」『村木新次郎教授還暦記念論集』学苑出版社 224-236

- (2015)「配慮表現の日中対照と日本語教育」『異文化理解と日本語教育』趙華敏編 高等教育出版社 216-231
- 李奇楠(2011)「禁止表現の日中対照」『日本語コミュニケーション研究論集』第1号 103-112
- (2012)「励ましの日中対照研究」『日本語コミュニケーション研究論集』第2号 79-89
- (2015)「「訴える」発話機能について」『日本語コミュニケーション研究論集』第4号 11-21
- 徐昌华、李奇楠(2001)《现代日语间接言语行为详解》北京大学出版社
- Searle, J.R. (1979) *Expression and Meaning: Studies in the Theory of Speech act*: Cambridge University Press, Cambridge.

用例出典

『中日対訳コーパス』(2003) 北京日本学研究中心

(李奇楠、北京大学副教授、liqinan@pku.edu.cn)